

1月17日(日) 常識を超えて溢れる恵み

1 すべての慰めの神

(2コリント 1:3~5) 私たちの主イエス・キリストの父なる神、慈愛の父、すべての慰めの神がほめたたえられますように。神は、どのような苦しみのときにも、私たちに慰めてくださいます。こうして、私たちも、自分自身が神から受ける慰めによって、どのような苦しみの中にいる人をも慰めることができるのです。それは、私たちにキリストの苦難があふれているように、慰めもまたキリストによってあふれているからです。

(マタイ 5:11~13) 義のために迫害されている者は幸いです。天の御国はその人たちのものだから。わたしのために人々があなたがたをのしり、迫害し、ありもしないことで悪口を浴びせるとき、あなたがたは幸いです。喜びなさい。喜びおどきなさい。天ではあなたの報いは大きいから。

(2コリント 1:6) もし私たちが苦しみに会うなら、それはあなたがたの慰めと救いのためです。もし私たちが慰めを受けるなら、それもあなたがたの慰めのためで、その慰めは、私たちが受けている苦難と同じ苦難に耐え抜く力をあなたがたに与えるのです。

2 明け渡した人生の幸せ

(2コリント 1:9~11) ほんとうに、自分の心の中で死を覚悟しました。これは、もはや自分自身を頼まず、死者をよみがえらせてくださる神により頼む者となるためでした。ところが神は、これほどの大きな死の危険から、私たちに救い出してくださいました。また将来も救い出してくださいます。なおも救い出してくださいという望みを、私たちはこの神に置いているのです。あなたがたも祈りによって、私たちに助けて協力してくださ

るでしょう。それは、多くの人々の祈りにより私たちに与えられた恵みについて、多くの人々が感謝をささげるようになるためです。

(レビ 1:10~12) しかし、もし全焼のいけにえのためのささげ物が、羊の群れ、すなわち子羊またはやぎの中からなら、傷のない雄でなければならない。祭壇の北側で、主の前にこれをほふりなさい。そして祭司であるアロンの子らは、その血を祭壇の回りに注ぎかけなさい。また、それを、部分に切り分け、祭司はこれを頭と脂肪に添えて祭壇の上にある火の上のたきぎの上に整えなさい。

(詩篇 73:28) しかし私にとっては、神の近くにいることが幸せなのです。私は、神なる主を私の避けどころとし、あなたのすべてのみわざを語りあげましょう。

3 収穫の始まり

(2コリント 1:19~21) …あなたがたに宣べ伝えた神の子キリスト・イエスは、「しかり。」と同時に「否。」であるような方ではありません。この方には「しかり。」だけがあるのです。神の約束はことごとく、この方において「しかり。」となりました。それで私たちは、この方によって「アーメン。」と言い、神に栄光を帰するのです。

(使徒 19:10~20) これが二年の間続いたので、アジアに住む者はみな、ユダヤ人もギリシヤ人も主のことばを聞いた。神はパウロの手によって驚くべき奇蹟を行われた。パウロの身に付けている手ぬぐいや前掛けをはずして病人に当てると、その病気は去り、悪霊は出て行った。…こうして、主のことばは驚くほど広まり、ますます力強くなって行った。